

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【動画「めぐみ」 の視聴】	3年生を対象に、社会科の授業の時間を活用して「めぐみ」の動画を視聴し、ワークシートに感想を記入する活動を行った。 生徒はニュースなどで、北朝鮮による拉致問題についての知識を事前に得てはいるが、どうしても関心が薄くなってしまい、自分も当事者であるという意識をもつことは難しい状況だった。 「めぐみ」の動画はアニメーションで作成されているので、生徒にとっても分かりやすく、拉致問題を身近なものとしてとらえることができている様子だった。
	成果 事後のワークシートには、「自分と同じ中学生なのに、ひとりぼっちで拉致されるなんてかわいそう」、「政府は解決に向けて、交渉を粘り強く続けていくべきだ」といった感想が見られた。拉致問題を「自分ごと」として再認識できた様子だった。
	課題 拉致問題については、社会科の歴史や公民の時間などを活用して、継続して取り組むべき内容であると実感した。授業時数の確保が難しいが、ICTやNIEを活用するなどして、生徒の関心を持続できるように今後も工夫をしていきたい。
2 実践2 【公民「インクルージョンについて考えよう」】	3年生の公民で、インクルージョンについて考える活動を行った。 まず、障害の有無に関わらず、不自由なく生活することができるようにするインクルージョンの実現が求められていることを、デジタル教科書を活用して生徒に説明した。 その後、デジタル教科書のイラストを参考に、インクルーシブな社会を実現するために、私たちはどのようなことに気を付けなければならないかを考えてMicrosoft Whiteboardに記入し、学級全体で共有した。
	成果 生徒からは、「点字ブロックの上には駐輪しないようにする」、「車いすの方や視覚障害のある方に声をかけるようにしたい」など、インクルージョンの考え方に基づいた意見がたくさん見られた。また、日立市内の公共施設についても、バリアフリーが導入されている点に目を向けた記述をしている生徒も見られた。
	課題 インクルージョンについては、教室の中の学習活動だけでなく、社会生活の中でどう生徒が行動に移れるかが今後の課題になる。実際に障害のある方に対面したとき、相手に寄り添った対応ができる生徒を育てるためには、教科の授業のみならず、学校の教育活動の全ての場面で思いやりを育んでいきたい。